

3本の矢を目指し新年スタート

平成30年の年頭あいさつが、仕事始めの1月4日、城西病院のリハビリセンターで達生堂グループの職員を一堂に集めて行われました。

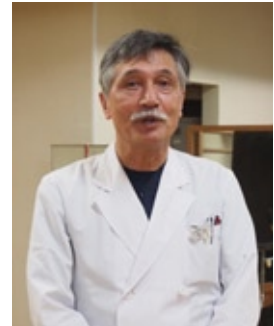
年頭あいさつで多田正毅理事長は「今年、医療法人から社会医療法人に移行したい。公共性が認められることによって社会医療法人になる。今、社会福祉法人、公益財団を持ち、社会医療法人となることで3本の矢を併せ持って社会に貢献したい」と抱負を語りました。また、相馬廣明名誉院長の長年の活躍が1月4日付の茨城新聞で報道されたことを受け、「『新しい生命の奉仕』を念頭に置いて、頑張ってもらいたい」と語りました。白石裕比湖院長と相馬名誉院長からも「今年も1年、頑張りましょう」とあいさつがありました。

社会医療法人は、救急医療や周産期医療など地域の医療に貢献する公共性、社会性の高い医療法人に対して認可される法人で、城西病院では昨年DMAT（災害派遣医療チーム）を組織し、救急医療の受け入れを充実させて地域医療に貢献し、社会医療法人の取得を目指しています。

また今年も、達生堂グループになり約2年が経過。江戸時代から脈々と続いてきた達生堂の意味を改めて確認し、新たな年の業務に生かすために、鈴木茂企画室長から『達生』の持つ意味を解説。江戸時代に佐藤順天堂と多田達生堂の2つの御典医が存在、現在まで脈々と流れてきた歩みの一端を紹介し、「達生とは『私達が、幸せで長生きできる人生を送れるようお手伝いします』という意味です」と、達生に込められた志を紹介しました。

最後に、全員で「今年も頑張ろう、を三唱し、新年のスタートを切りました。

平成30年1月4日



達生とは

「私達が、幸せで

長生きできる人生を

送れるようお手伝いします」

という意味です

